

《もくじ》  
月々のことば

表紙のことば	林智康	3
1月のことば	林智康	19
2月のことば	林智康	33
3月のことば	林智康	45
4月のことば	東光爾英	55
5月のことば	東光爾英	65
6月のことば	東光爾英	77
7月のことば	貫名讓	89
8月のことば	貫名讓	99
9月のことば	貫名讓	109
10月のことば	山本攝叡	121
11月のことば	山本攝叡	133
12月のことば	山本攝叡	145
あとがき	.....	158

\*聖教の引用については、

『浄土真宗聖典（註釈版）第二版』は『註釈版聖典』

『浄土真宗聖典（七祖篇）註釈版』は『註釈版聖典（七祖篇）』  
と略記しています。

表紙のことは

Within the depths of sorrow, there is true joy.

悲<sup>かな</sup>しみの深<sup>ふか</sup>さのなかに  
真<sup>しん</sup>のよろこびがある

瓜生津 隆真

## 先生との思い出

毎年、真宗十派が加盟する真宗教団連合によって「法語カレンダー」が出版されています。

去る二〇一九年五月一日、元号がそれまでの「平成」から「令和」に代わりました。この「令和」は、『万葉集』に載っている文から選ばれたものです。したがって、二〇二〇年版「法語カレンダー」は令和二年版になります。もう少し早くから次の元号が決められていたならば、スムーズに移行できて混乱を生じさせることもなかったと悔やまれます。

表紙のことは、京都女子大学名誉教授であった瓜生津隆真先生（うりゆづりゆうしん）の著『仏教から真宗へ―仏教用語散歩―』（本願寺出版社）から引用されたものです。

瓜生津先生は一九三二（昭和七）年九月に生まれられ、二〇一五（平成二十七）年二月に往生されました。八十二歳でした。文学博士で、滋賀県犬上郡（いぬかみぐん）にある浄土

真宗本願寺派法城寺（ほうじょうじ）の住職をされていました。ご著書には、『龍樹（りゆうじゆ）（ナーガールジュナ） 空の論理と菩薩の道』『信心と念仏』『親鸞聖人に学ぶ―無我と他力』『聖典セミナー 阿弥陀経』など、多数があります。

この「法語カレンダー」との関わりでは、先生は、二〇〇七（平成十九）年、二〇〇八（平成二十）年と続けて、カレンダーの解説書である『月々のことば』の表紙のことは担当されていました。二〇〇七年は、

仏心（ぶつしん）というは大慈悲これなり

（『観無量寿経』）

そして二〇〇八年は、

世のなか安穏なれ 仏法ひろまれ

（『親鸞聖人御消息』）

という法語について、文章を書かれています。

たまたま二〇〇八年の「法語カレンダー」に私も関わり、四月は、

真なるものはなはだ少なく 偽なるものはなはだ多い

（『教行信証』化身土巻）

という法語の解説を、そして五月には、

仏の国土は清く安らかな涅槃の世界である

（『教行信証』証卷引文、『無量寿経』上巻）

六月には、

仏の智慧をほめたたえ その功德を人々に伝えよう

（『浄土和讃』「讚阿弥陀仏偈和讃」）

という法語の解説を担当いたしました。

瓜生津先生とのご縁のなかで思い出すのは、二〇〇二（平成十四）年度の浄土真宗本願寺派布教講会です。これは布教使の研修会で、九月二日から六日まで西本願寺聞法会館で開かれました。先生は教講を務められ、四日間、「大乘菩薩道と真宗」の題名で講じられ、私も副講の任を与えられ、三日間、「真宗和語聖教―一念多念文意・唯信鈔文意・尊号真像銘文を中心として」の題名で講述しました。

### 真の仏弟子

それでは、法語「悲しみの深さのなかに真のよろこびがある」のご文を味わってみましょう。